



Optics & Photonics Japan 2006

日本光学会 産学官連携委員会企画シンポジウム

日本光学会における“場”の変革について考えよう - 21世紀型の知的創造にむけて -

日本は科学技術立国を目指して海外から多くを学ぶとともに、創意工夫を重ねることで先進国の仲間入りをしました。光学産業もその例にもれません。しかし、情報化社会の進展は世界を狭くし、技術革新のサイクルが加速しています。一方、地球環境や人々の価値観が急速に変化する中、新たな創造に向けた目標の設定が求められています。

日本光学会は産学官の情報交換や連携の場として有効に機能した歴史があり、今後も様々な立場の人、様々な研究フェーズのコミュニケーションを更に活性化するための、創意・工夫、考え方の技術(ソフトテクノロジー)を涵養する場が学会に求められます。重要なことは、自から発信し、周囲との連携(コミュニケーション)を通して、物事の本質へのアプローチをどう効果的に実現するかです。

このセッションでは、表題のテーマのもとに各方面の識者からの提言と議論を通じて、今後も世界の光技術を先導するイノベーションの展開に大いに貢献できるよう、日本光学会という科学・技術者が交流する場の変革について考えます。

会場 学術総合センター(一橋記念講堂) 〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2

営団地下鉄半蔵門線/都営地下鉄三田線・新宿線「神保町」A8,9 出口

営団地下鉄東西線「竹橋」1b 出口 徒歩3~5分

参加登録 OPJ2006 への参加登録が必要です。下記ホームページからお申し込みください。

日時 2006年11月9日(木) 10:20~15:00

プログラム

- 10:20-10:25 開会の挨拶 山本 公明(産学官連携委員会委員長)
- 10:25-10:40 産学交流の場, 日本光学会とその変革
伊東 一良(日本光学会幹事長, 大阪大学)
- 10:40-11:15 サイエンス型産業におけるイノベーション・プロセス調査(於応用物理学会)の含意
中馬 宏之(一橋大学イノベーション研究センター)
- 11:15-11:50 産学連携の基本構造と実効的運用方策
石川 正俊(東京大学)

< 昼食 >

- 13:00-13:35 多様化する現代社会における「場」の意義
清水 博(場の研究所)
- 13:35-14:10 戦略ロードマッピングによるサービス・製品・技術イノベーションの統合的ダイナミック・マネジメント
亀岡 秋男(北陸先端科学技術大学院大学)
- 14:10-14:40 “洞察を得た人+資金=イノベーション”の場; 米国版 LLC
~~あるいは、『Innovation unaccountability について』~~
齋藤 旬(ニコン)
- 14:40-15:00 進化するブレインネットワークの構築
- 産学官連携委員会における取り組みについて -
谷田 純(大阪大学)

OPJ2006ホームページ <http://www.opt-j.com/opj2006/>

連絡先(企画担当) 佐藤 彰(コニカミノルタ) akira.sato@konicaminolta.jp